

## 第11回 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 議事概要

|      |                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------|
| 日 時  | 令和7年7月3日（木）10:00～11:15                                                |
| 会 場  | アーバンネット仙台中央ビル 4階 カンファレンス A・B                                          |
| 議 題  | 1. 開 会<br>2. 未来ビジョン策定について<br>3. 今後の検討の進め方と体制について<br>4. 意見交換<br>5. 閉 会 |
| 配布資料 | 資料<br>資料1 未来ビジョン策定について<br>資料2 今後の検討の進め方と体制について                        |

冊子 青葉通仙台駅前未来ビジョン

参考資料 青葉通まちづくりビジョン 概要版

### ○主な意見等

（委員意見）

- ・進め方や体制について異論はない。
- ・今後の取り組みに向けた機運の醸成が重要だと思う。
- ・「未来ビジョン」の冊子をただ設置するだけでなく、積極的に配布したりイベントを開催したりすることで、仙台市が青葉通や駅前の再構築に取り組んでいることを市民に認知してもらい、投資を呼び込むような機運を高めていくことが重要だと思う。

（委員意見）

- ・仙台の顔として地域の活性化や賑わいの創出、魅力向上に資する取り組みは、市民・県民の期待に応えるものであり、意義あるものと認識している。
- ・加えて、安全・安心な地域社会の実現も重要であると思う。
- ・まちづくりの進展により多くの人が集まることで、犯罪リスクも高まってしまう。防犯対策やイベント時の雑踏対策、防災機能の検討も同時に行ってほしい。
- ・賑わい空間の利用者のみならず、その他の道路通行者の円滑な交通確保も必要である。令和4年度の社会実験では成果もあったが、道路交通に関する課題も明らかになったと考えており、それへの対策も必要だと感じている。

（委員意見）

- ・東北学院大学五橋キャンパスの開設により人の動きが変化すると認識しているが、自転車の量や人の流れの変化について把握しているか。

- ・把握している場合は、今後の建物づくりの参考としたいため、情報提供をお願いしたい。

(事務局)

- ・既存のものであれば、商店街の商工会議所が実施した人流調査データがある。
- ・市が実施する交差点の交通量調査は今年度に予定しており、その結果を今後の検討に反映することは可能である。

(委員意見)

- ・朝の通勤時に愛宕上杉通の交通量が大幅に増加していると感じている。
- ・時間帯によっては五橋駅から地下鉄利用者があふれている状況も見受けられる。

(委員意見)

- ・人の流れは変化していると考えられるが、駅前の自転車交通量には大きな変化は見られない印象である。
- ・学生の居住地や人の流れの変化を踏まえ、青葉通への人の集まり方について検討することが望ましいと思う。

(委員意見)

- ・商工会議所の通行量調査について、調査地点は全部で8箇所。東一番丁通に3箇所、中央通に3箇所、仙台駅東西自由通路に1箇所、ペデストリアンデッキ上のパルコ2前で1箇所である。
- ・調査は2日間実施し、昨年度比で通行量は増加している。東口自由通路は20%、ペデストリアンデッキは15%増加している。
- ・仙台駅の拠点性が強まっており、東口やパルコ2方面への人の流れも確認されている。
- ・アーケードの交通量は微増。お茶の井ヶ田の移転もあったが、その影響は限定的のように考えている。
- ・調査は毎年、東北楽天ゴールデンイーグルスの試合が開催される金曜・土曜に実施している。

(委員意見)

- ・調査は既存商店街中心であり、まち全体への人の広がりとは別の調査で確認する必要があるように思われる。

(委員意見)

- ・まちづくり協議会の2020年以降の活動や今年度の予定、活動にあたって抱える課題について教えてほしい。

(委員意見)

- ・ 2020 年に社会実験を行ったことを説明したが、実は 2022 年にも、それ以上の規模の社会実験を実施している。公共空間でのイベント企画を行い、まちづくり協議会構成員の協賛金により実施した。内容としては、歩道上でのスラックラインやストリートピアノを設置したものである。
- ・ 継続的な活動には資金面・人材面での課題があり、2023 年以降は企画をプレイヤーに委ね、協議会は行政とプレイヤーの間に立つ、中間支援という立場で活動している。
- ・ 直近では、藤崎百貨店横の amnt によるクラフトビールイベントを実施しており、今年度は「ほこみち」指定を目指して社会実験を進める予定である。
- ・ 課題はマンパワーとマネタイズであり、社会実験を通じて検証していきたいと考えている。

(委員意見)

- ・ 青葉通のあり方を検討するにあたり、建物の更新事業が重なる今は数十年に一度の大きな変革の機会だと思う。
- ・ 仙台の競争相手は東北の他県庁所在地ではなく、大宮や東京であり、それらと比較しても魅力ある空間づくりが必要。
- ・ 現在の取り組みの延長ではなく、斬新なアイデアで駅前を構想すべき。5～10 年後ではなく数十年後を見据えた検討が求められる。

(委員意見)

- ・ かつては、仙台駅前にたくさんの人が自然という時代であったが、近年はスマートフォンの普及により駅での待ち合わせがなくなり、駅前で時間を調整する行為が減ってきている。自動運転が進むと、駅前で鉄道と車の乗り換えという行為も変わるかもしれない。
- ・ 今までの計画の進め方は、将来を見通して着実に進めるものであったが、将来を見通すことが難しい現代においては、その時々状況・人の動き・反応を見ながら計画を変えていかざるを得ない。長期的視点で外してはならない大方針を定めつつ、細かい部分は各事業者委ね、道路空間の使い方も絶えず見直して対応していくことが望ましい。
- ・ そういう意味で、ここでいう「具体化」とは、特定の形を決めておくことではなく、最低限、緩やかに目指す方向性をそろえていくことだと認識している。
- ・ 「(仮称) 空間構想」の内容は沿道の事業を縛るものではなく、全体の方向性を定めたうえで、言葉だけでなく空間的イメージを共有するものだと思う。
- ・ 道路については、これから交通量が減っていく時代において、全ての道路を全ての人に使うのではなく、それぞれの道路の性格付けを考え、使い分けをしてもらうことが必要と感じる。
- ・ 青葉通の性格付けを考え、どういう役割を果たしていかなければならないのか議論してほしい。その理解が得られれば、思い切ったこともできるかもしれない。特に駅前は人が多

い場所であるため、性格付けをしっかりと考える必要がある。

- ・青葉通まちづくり協議会のビジョンは、策定から時間が経過し見直すべき点もあると思われるため、そのまま踏襲するのではなく、参考にしながらもう一度青葉通の位置づけを議論すべきと考える。

以上